



大腸がんの化学療法

大腸がんの化学療法

近年の化学療法の進歩は目覚ましいものがあり、特に大腸癌ではこの10年程度で大きく進歩しました。多数の抗がん薬が開発され、治療成績が改善されただけでなく、治療の選択肢も増えてきました。その一方で、投与方法は複雑化し、副作用も様々なものがみられるようになり、その管理と治療が重要視されるようになってきました。

化学療法

術前補助化学（±放射線）療法

- ・・・手術の前に、補助的に行う治療です。
腫瘍を小さくして、切除範囲を縮小することを目的とします。

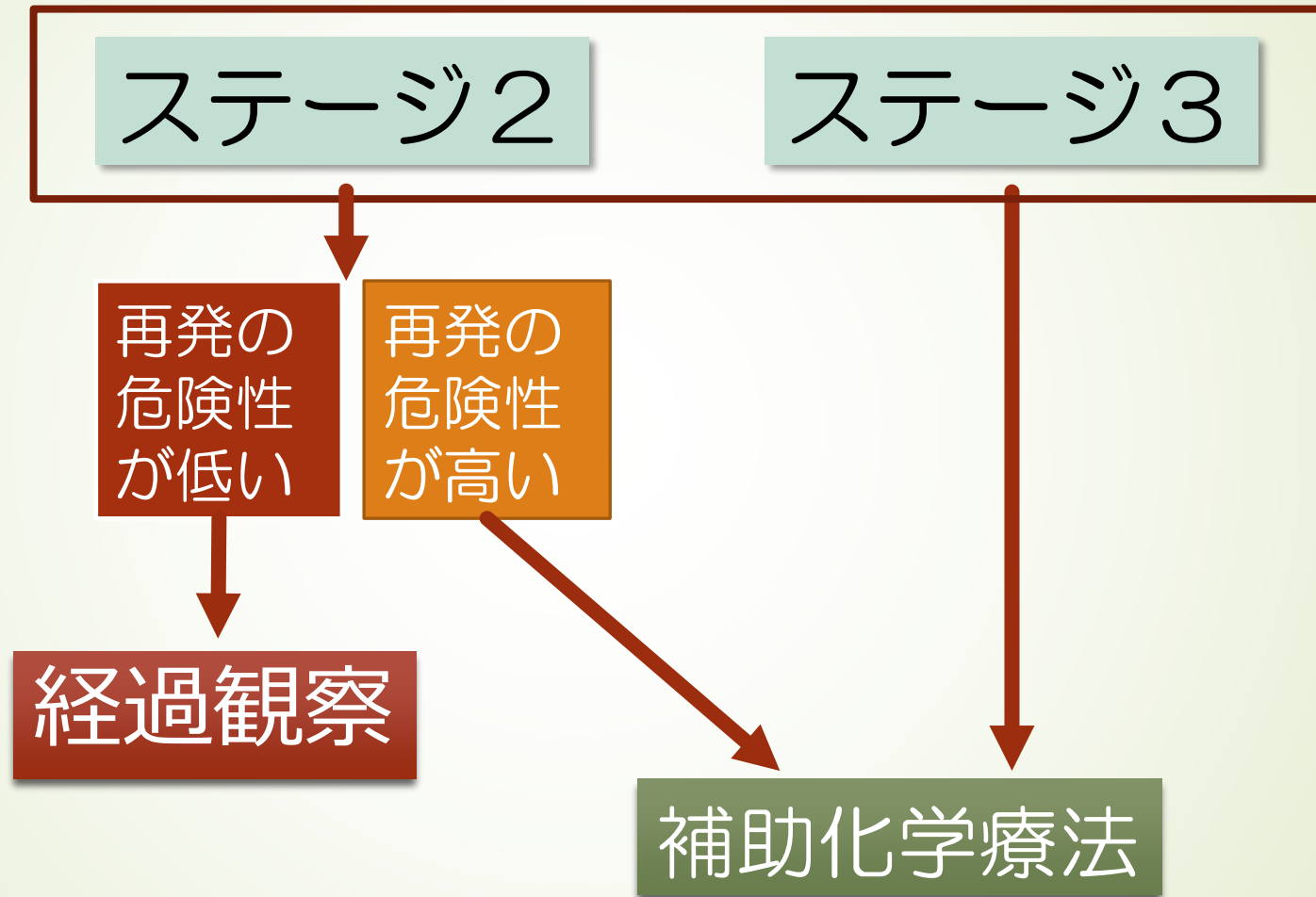
術後補助化学療法

- ・・・手術の後で、再発予防のために行う化学療法です。
およそ6か月行います。

切除不能進行・再発がんに対する化学療法

- ・・・発見時に、切除できない高度進行がんや、再発がんに対する化学療法です。手術や放射線治療と組み合わせて行うこともあります。

術後補助化学療法



※ 再発の危険性は、手術で切除した病変を顕微鏡で検査（病理検査）した結果をみて判断します。

切除不能進行・再発症例に対する化学療法

保健適応となっている薬剤はすべて使用可能です。大腸がん治療ガイドラインを基本としていますが、患者様のライフスタイルも考慮し、薬剤を選択しています。治療を効果的に行い、かつ、**患者様の生活の質**をできるだけ損なわないように努めています。当院で手術を受けられた患者様はもとより、他院で手術を受けられた患者様の相談や治療もお受けしております。

現在の化学療法は、一部の治療法を除いて、患者様のQOL（生活の質）を維持するという観点から、**原則として外来で行える**ように工夫されています。ただ、患者さんによっては、様々な理由から外来治療が適さない場合もありますため、入院治療を組み合わせることもあります。

当院では患者様、一人ひとりに合わせた治療、個別化治療に努めています。

